

岩手看護学会誌

巻頭言

岩手看護学会の特長とは？	内海香子	1
--------------	------	---

原著論文

障がい児の家族支援における多職種の協働への役割モデルの構築 —家族を主体としたトータルケアに向けた取り組みを通して—	原 瑞恵, 白畑範子	3
---	------------	---

研究報告

PRECEDE-PROCEED モデルを活用した産後ケア事業に関する文献検討 —岩手県の地域特性をふまえて—	山本洋子, 遊田由希子, 蛭崎奈津子	15
外来化学療法を受けている切除不能膀胱がん患者の療養体験	高屋敷麻理子, 菊池和子	27
岩手県内の医療機関で働く看護職の看取りとデスカンファレンスの実態	鈴木美代子, 千田睦美, 伊藤 収	41
インスリン療法を行っている糖尿病をもつ高齢利用者を支える訪問看護師の医療機関との連携への思い	佐藤淳子, 千田睦美, 小嶋美沙子, 土屋陽子	57

実践報告

橈骨遠位端骨折術後の手指拘縮に影響を与える要因	片岡百合子, 小林美佳, 佐々木恵美, 神山礼子, 野里 同	67
-------------------------	--------------------------------	----

めんこいセミナー

千田睦美, 三浦奈都子	73
-------------	----

岩手看護学会誌投稿規則	75
Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines	80
論文投稿のご案内	84

編集後記	85
------	----

巻 頭 言

岩手看護学会の特長とは？

本号は、平成から令和に元号が変わり、初めての学会誌となります。論文を投稿していただきました多くの皆様に感謝いたします。

最近看護系の学会も増え、学術集会への参加や学会誌へ投稿をする際に、演題や論文を公表する学会について悩むことがあります。その背景には、看護の専門性が分化したことにより、自分の関心や専門性を深めたいという要望や、対象の支援に多職種との連携が欠かせない状況から、多職種が集う学会に高い価値を置くことなどがあります。

岩手看護学会は、ご存知の通り、岩手県を中心とした東北地方の保健・医療・福祉に携わる看護職、看護教員、看護学生が会員です。特定の看護の分野を深めるという性質の学会ではありません。そうすると岩手看護学会にはどのようなことが期待できるのでしょうか。改めて岩手看護学会の特長について考えてみました。

岩手看護学会の特長は3つの交流にあると考えます。すなわち知の交流、職種の交流、世代の交流です。

まず知の交流とは、看護学の知（看護理論・看護研究や蓄積された看護の知識や技術）と臨床の知（実践知）の交流です。次に職種の交流とは、保健師、助産師、看護師、養護教諭など、あらゆる場で、あらゆる対象にかかわる看護の職種が一同に集う場であることです。最後に、世代の交流は、学生と看護職者の交流です。看護職者は学生の考えを、学生は看護職者の考えを知り、世代間で学び合う場となります。更に看護職側から基礎教育への要望や、基礎教育側から継続教育への要望を発することで、次世代の岩手の看護を担う人材を育てる視点や機会が得られます。

これらの交流から、岩手看護学会には、岩手で生活する対象の理解や支援に役立つ知が蓄積され、看護職にとってより質の高い実践への示唆と相手の顔が見える蜜な連携を得る機会があるのではないのでしょうか。また、看護教育においても、臨床側と教育側の双方に示唆があるのではないのでしょうか。

是非、ご自身が実践する場にある学会を大切に育て、活用していただければと思います。

岩手看護学会理事長

内 海 香 子

<原著>

障がい児の家族支援における 多職種の協働への役割モデルの構築 —家族を主体としたトータルケアに向けた取り組みを通して—

原 瑞恵 白畑範子

岩手県立大学看護学部

要旨

本研究は障がい児の家族支援において家族を主体としたトータルケアに向けた取り組みから、多職種の協働への役割モデルを構築することを目的とした。方法は多職種 12 名でチームを立ち上げ、アクションリサーチを導入し、研究者は看護職の立場でチームの調整をした。

実践の結果、多職種チームへの 4 つのサポート場面と看護職の役割モデルが見出された。家族支援においてチームとして志向するために、チームとして家族支援の目標を決める場面ではチームの課題と強みを気づかせる役割、チームの主体性を発揮させる場面では家族支援の目標を意識づける役割があった。チームとして家族主体に意識を変化するために、家族支援の方向性を統一する場面では親の心理状態や家族の状況を伝える役割、メンバー各々が自分の考えに自信をもつ場面では、チームとしての家族支援の目標や、家族から得られた情報と関連づけ、メンバーの考えを後押しする役割があった。

キーワード：トータルケア，障がい児，家族支援，家族主体，看護職の役割モデル

< Original Article >

Constructing a Nursing Model for Interdisciplinary Cooperation in the Support of Families with Disabled Children : Working Towards Providing Total Care that Includes Family-based Care

Mizue Hara, Noriko Shirahata
Iwate Prefectural University, Faculty of Nursing

Abstracts

In this study, our goal was to create a model for interdisciplinary cooperation of families with disabled children. This model was based upon the total care providing support for families. Our method was to form a team of 12 individuals and conduct action research; then, researchers made adjustments to the team from the perspective of the nursing staff.

It was found in our study that 4 scenes that they were able to support and their role models were available. Their role was; to bring about in the team a conscious desire to work together when providing support for families, to draw attention to the team's problems and strengths when establishing family care as the team's common goal, and to bring greater awareness to the goal of family care when displaying the team's independence. When changing the team's awareness to the family-oriented one, they had a role to inform the team of family conditions and the parents' psychological state when integrating a supporting way for family, and to bring together information from the family with the overall goal of family care and support member's ideas while each member found confidence in their own thoughts.

Keywords : total care, child with disabilities, support for families, family-based care, role model on nursing

<研究報告>

PRECEDE-PROCEED モデルを活用した

産後ケア事業に関する文献検討

—岩手県の地域特性をふまえて—

山本洋子 遊田由希子 蛎崎奈津子

岩手医科大学看護学部

要旨

産後ケア事業に関する文献をヘルスプロモーションに関する理論の一つである PRECEDE-PROCEED モデルに照らし合わせて整理し、岩手県の実情に応じた産後ケア事業の展開方法を考察した。過去 10 年間で報告された文献を対象とし、行動変容のために重要である「教育/エコロジカルアセスメント」の 3 要因について整理した。準備要因は「認知度と情報源」、「母親が専門職から得ておきたかった産後の知識」、強化要因は「具体的なケア内容」、「利用した母親の評価」、「利用後の生活状況」、実現要因は「経済的負担」、「効果的な利用時期」、「支援体制」が抽出された。産後ケア事業は健やかな育児の遂行に一定の効果がある一方、経済負担、認知度の低さ等が課題であった。岩手県の地域特性をふまえた事業のあり方としては、低額で誰でも利用できること、医療機関の一部利用や既存事業の一部改善も一案であること、そして医療者を含めた本事業に関する認知度の向上が重要と考える。

キーワード：産後ケア事業，文献検討，PRECEDE-PROCEED モデル，地域特性

< Research Report >

Literature Review on Postpartum Care
Using the PRECEDE-PROCEED Model :
According to Local Circumstances in Iwate Prefecture

Yoko Yamamoto, Yukiko Yuda, Natsuko Kakizaki
Faculty of Nursing, Iwate Medical University

Keywords : Postpartum care , literature review, PRECEDE-PROCEED model, local circumstances

＜研究報告＞

外来化学療法を受けている 切除不能膵臓がん患者の療養体験

高屋敷麻理子¹⁾ 菊池和子²⁾

1) 岩手県立大学看護学部 2) 岩手保健医療大学看護学部

要旨

膵臓がん stage IV 切除不能と診断され、外来化学療法を施行している患者の療養体験を明らかにすることを目的に、初診時から stage IV 切除不能で外来化学療法中の膵臓がん患者 5 名に、外来化学療法中の療養体験について半構成的面接を行い質的帰納的に分析した。その結果、病名がわかった時の体験、治療が始まってからの体験の 2 つに大別され、病名がわかった時の体験は、【膵臓がんとなり、死を覚悟する】など 7 カテゴリーと、治療が始まってからの体験は、【抗がん剤の副作用症状は辛い】【がんの症状緩和を切望する】など 13 カテゴリーが抽出された。膵臓がん患者は、がんの症状による辛さを感じ、死への不安や全人的苦痛を感じながら過ごしていた。しかし、がんの症状緩和や、患者の生きがいや支えが生きる力になっていたことから、看護師は患者や家族を支え、早期症状緩和や、その人が望む治療や療養先の意思決定支援をする必要性が示唆された。

キーワード：膵臓がん stage IV、外来化学療法、療養体験、緩和ケア

< Research Report >

The Experiences of Patients Receiving Outpatient Chemotherapy for the Treatment of Unresectable Pancreatic Cancer

Mariko Takayashiki ¹⁾, Kazuko Kikuchi ²⁾

1) Iwate Prefectural University, Faculty of Nursing, 2) Iwate University of Health and Medical Sciences

Keywords : pancreatic cancer stage IV, outpatient chemotherapy, experiences during treatment, palliative care

＜研究報告＞

岩手県内の医療機関で働く看護職の看取りと デスカンファレンスの実態

鈴木美代子 千田睦美 伊藤 収
岩手県立大学看護学部

要旨

本研究は、岩手県内の医療機関で働く看護職の看取りとデスカンファレンスの実態を明らかにする目的で質問紙調査を実施した。同意が得られた 23 医療機関の看護職 750 人を分析対象とした（有効回答率 65.4%）。対象者の平均勤続年数は 17.6 年で、約 7 割が看取りを 11 回以上経験し、9 割弱が普段のケアにおいて死生看護を意識しながら実践していた。デスカンファレンスへの参加経験者は 48.7%で、約 7 割が「有意義であった」と回答し、その理由に、【チームでケアの方向性を確認し、次の看護に生かしていくことができる】、【多面的にケアを振り返ることで気付きが得られる】など、ケアの質向上や看護専門職としての学び・成長につながる内容が抽出された。一方で、参加経験がない人は半数を上回り、その 6 割が「参加してみたい」と期待やニーズを表していたことから、各医療機関の状況やニーズに応じた効果的なデスカンファレンス導入に向けた教育的介入の必要性が示唆された。

キーワード：医療機関，看護職，看取り，死生教育，デスカンファレンス

< Research Report >

A Research on End-of-life Care and Death Conferences of Nurses working at Medical Institutions in Iwate

Miyoko Suzuki, Mutsumi Chida , Osamu Ito
Iwate Prefectural University, Faculty of Nursing

Keywords : End-of-life care, Death education, Death conferences, Medical institution nurses

＜研究報告＞

インスリン療法を行っている糖尿病をもつ 高齢利用者を支える訪問看護師の医療機関との連携への思い

佐藤淳子¹⁾ 千田睦美²⁾ 小嶋美沙子²⁾ 土屋陽子³⁾

1) 前ニチイケアセンター盛岡南 2) 岩手県立大学看護学部

3) 弘前学院大学看護学部

要旨

インスリン療法を行っている糖尿病をもつ高齢利用者を支える訪問看護師の、医療機関との連携への思いを明らかにすることを目的とした。

A 県内の訪問看護師 9 名に半構成的面接を行い、質的帰納的に分析した。その結果、【在宅での難しいインスリン療法を継続するために、医療機関と在宅の支援をつなぐ】、【医師との連携が困難な状況でも、糖尿病をもつ高齢利用者の療養生活を支えていく】、【医療機関と共に高齢利用者の生活継続を支えたい】の 3 つのカテゴリーが抽出された。

訪問看護では、高齢利用者は複数の疾患を持つことが多く、糖尿病を診ている医師が訪問看護の指示医ではない場合があるため、指示医を通した診療情報の共有の必要性が示唆された。また、医療機関との連携強化のために、医療機関の方針を共有し、訪問看護師からの報告書に対する医療機関からの返事が得られる仕組みが必要であることが示唆された。

キーワード：糖尿病をもつ高齢利用者、インスリン療法、訪問看護、連携、医療機関

< Research Report >

The Thoughts to the Cooperation with Medical Institutions
of Visiting Nurses who Support Elderly
with Diabetes Undergoing Insulin Therapy

Atsuko Sato¹⁾ Mutsumi Chida²⁾ Misako Kojima²⁾ Yoko Tsuchiya³⁾

1) Former Nichii Care Center Morioka Minami

2) Iwate Prefectural University, Faculty of Nursing

3) Hirosaki Gakuin University, Faculty of Nursing

Keywords : elderly with diabetes, insulin therapy, visiting nurse, cooperation, medical institution

＜実践報告＞

橈骨遠位端骨折術後の手指拘縮に影響を与える要因

片岡百合子¹⁾ 小林美佳¹⁾ 佐々木恵美¹⁾ 神山礼子¹⁾ 野里 同²⁾

1) 栃内病院 2) 岩手医科大学看護学部

要旨

本研究は、橈骨遠位端骨折術後の手指拘縮に影響する要因を再検討し、手指拘縮に対する予防的ケアの示唆を得ることを目的とした。

A 病院で手術を行った橈骨遠位端骨折術後の 59 名を対象に、手指拘縮あり群となし群に分けて手関節の関節可動域や周囲径、血液データとの関連について分析した。

結果は、手指拘縮あり群は、術後 1 週までは手指関節の周囲径が有意に長く腫脹が認められた。そして、術後 3 週の周囲径では群間に有意差は認められなかったが、手指拘縮なし群と比較し手指拘縮あり群の手関節の伸展・屈曲の関節可動域が有意に短く改善していた。

これらのことから、手指拘縮の予防には、術後 1 週までは冷却や患部挙上など腫脹に対するケア介入が必要と考えられた。また、術後 1 週以降は、手関節の伸展・屈曲を重点に手関節のリハビリテーションを行うことが手指拘縮の予防に有用と考えられた。

キーワード：橈骨遠位端骨折、手指拘縮、予防的ケア

< Case Report >

An Investigation of Factors Influencing the Limited Ranges of Motion in Patients after Surgery for Distal Radius Fracture

Yuriko Kataoka¹⁾ Mika Kobayashi¹⁾ Megumi Sasaki¹⁾

Reiko Kamiyama¹⁾ Hitoshi Nozato²⁾

1) Tochinai Hospital

2) Faculty of Nursing, Iwate Medical University

Keywords : distal radius fracture, ranges of motion, rehabilitation

平成30年度 岩手看護学会 めんこいセミナー報告

「後輩の研究指導ってどうすればいいの？」

お姉さん・お兄さんナースのための研究計画書の読み方，指導のポイント

岩手県立大学看護学部

千田睦美 三浦奈都子

岩手看護学会では，めんこいセミナーと題して，臨床実践と研究をつなぐテーマに関する研修会を毎年開催しております．平成30年度は，研究指導の役割を担う臨床ナースのために，指導のポイントや心構えについて理解し，研究計画書例をもとにグループワークを行う研修会を実施いたしました．研修の概要は以下の通りでした．

- 講 師：岩手県立大学看護学部
千田睦美 三浦奈都子
- 運 営：岩手看護学会めんこいセミナー
運営グループ担当 岩渕光子
- 日 時：平成31年2月2日（土）
13：30～15：30
- 会 場：いわて県民情報交流センター
（アイーナ）7階
岩手県立大学アイーナキャンパス
学習室4
- 内 容：研究計画書とは（基本講義）
実際の研究計画書例を使用して，どのように読むか，指導のポイントのグループワーク（演習）

参加者は28名で，看護師がほとんどであり，主任看護師，養護教諭の参加もありました．

まず，研究計画書の基本について講義を行いました．研究計画書は，研究チームのメンバーや研究指導者との情報共有や倫理審査会への申請のために必要となります．研究計画書を他者と共有するためには，わかりやすく具体性がある内容でなければなりません．そのために，多くの研究計画書には以下の項目が記載されています．「研究課題（テーマ，タイトル）」，「研究目的」，「研究背景」，「研究方法」，「スケジュール」，「倫理的配慮」，「研究に必要な費用」，「引用文献」で

す．これらの中に，研究の6W3Hが含まれているかを意識して指導していくと具体性が増していきます．すなわち，What【なにを（課題）】，Why【なぜ（動機）】，Who【だれが（担当）】，Whom【だれに（対象）】，When【いつ（時期）】，Where【どこで（場所）】，How【どのように（手段）】，How many【どのくらいの（規模）】，How much【いくらで（費用）】です．

さらに，日々の看護を実践する中で生まれてきた疑問（クリニカル・クエスチョン）が，より良い研究の問い（リサーチ・クエスチョン）として成り立っているかをチェックするためには，福原氏が提案しているFIRMMNESSを用いると良いでしょう．すなわち，Feasible【実施可能があるか】，Interesting【興味深く，関心があるか】，Relevant【切実であり意義があるか】，Measurable【測定可能であるか】，Modifiable【改善可能か】，Novel【新しい知見があるか】，Ethical【倫理的か】，Structured【構造化されているか】，Specific【明確化，絞り込みされているか】です．（福原俊一：リサーチ・クエスチョンの作り方，特定非営利活動法人健康医療評価研究機構，2015.）

次に，研究の問いが明確になると，研究方法が定まってきます．例えば，そこで，なにが起きているのかを明らかにするのであれば観察法や面接法，もし～すればどうなるかを明らかにするのであれば，実験研究となります．研究方法がリサーチ・クエスチョンを明らかにするために適切であるかをチェックしてください．

研究方法が決定すると，おのずとスケジュールが見えてきます．ほとんどの場合，1年間で研究結果をまとめて発表することが多いと思いますので，そこから逆算する形でスケジュールを組み立てていくことになります．しかし，あらかじめ予測を立ててスケジュールを組んでいても，対象の数が不足している，データ

の分析が進まないなどの理由により、予定が遅れることがままあります。そのような時こそ、研究計画書を用いて研究チームのメンバーと現状を把握し、スケジュールの調整や方法の見直しについて指導してください。

また、後半は研究計画書の指導のポイントについて講義と演習を行いました。

研究指導は看護職としての学びや成長の手段であり、看護研究を通して目指したいゴールが研究実施者および研究指導者の両者に存在します。研究の指導者には後輩の研究指導を通して、看護実践以外の関わりと後輩の多面的な看護実践能力の理解の機会を得ることができ、プリセプター役割の一環として、後輩の成長を支援し、自らの役割の見つめなおしの一助とするという成果が得られるはずです。研究実施者においては、ラダーとして、目標をクリアするということだけではなく、看護研究を通した学び直しにより、臨床の疑問点の焦点化、明確化、それを研究テーマに絞り込

むプロセスの支援を得ることで、新たな学び体験とその承認を得られる機会となります。さらに、看護思考力の向上として、疑問をそのままにせず明らかにする向上心を発揮することへのステップともなり得ます。研究実施者と研究指導者は、看護研究を完成させるその先にある成果を認識したうえで、看護研究に取り組んでいただくとよいのではないかと考えます。

研究指導の際にも、研究実施者の達成度を見極め、段階に合わせた承認や励ましなど、支持的な介入を行うことができると、後輩である研究実施者の成長を後押しできるのではないのでしょうか。

今回のめんこいセミナーでは、具体的な研究計画書案をもとに、どのような点を指導するとよりよい計画書になるかを考えるグループワークが好評でした。研究実施者も悩んでいます、研究指導者も同じように悩んでいます。今後もめんこいセミナーでは、看護実践の場における研究を促進できるような研修の場を計画していきたいと考えています。

岩手看護学会誌投稿規則

1. 総則

- (1) 本学会は、看護学における研究成果の発表を目的として、岩手看護学会誌 /Journal of Iwate Society of Nursing Science を年 2 回発行する。
- (2) 刊行については、本学会が編集委員会を設置し、その任にあたる。
- (3) 本雑誌は、オンライン (Internet) および紙媒体にて出版する。

2. 投稿規定

(1) 投稿資格

- 1) 筆頭執筆者は本学会の会員とする。
- 2) 本学会が依頼した場合には前項の限りではない。
- 3) 日本以外の国から投稿する者については会員以外でも投稿資格を有するものとする。
- 4) その他の投稿者については編集委員会が決定する。

(2) 著作権

本誌掲載論文の著作権は本学会に帰属する。

投稿者は、版權の利用に当たって、本規則の附則に従う。

(3) 論文の種類

本誌に掲載する論文は、総説、原著、事例報告、短報、その他とし、論文として未発表のものとする。審査の段階で編集委員会が論文の種類の変更を指示することがある。

・総説

看護学に関わる特定のテーマについての知見を集め、文献等をレビューし、総合的に学問的状況を概説したもの。

・原著

看護学に関わる研究論文のうち、研究そのものに独創性があり、新しい知見を含めて体系的に研究成果が記述されており、看護学の知識として意義が明らかであるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・事例報告

臨床看護上貴重な臨床実践例の報告で、臨床看護実践または看護学上の有益な資料となるもの。

・研究報告

看護学に関わる研究論文のうち、研究成果の意義が大きく、看護学の発展に寄与すると認められるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・短報

看護学に関わる研究論文のうち、新しい知識が含まれており、看護学の発展に寄与することが期待できるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・その他 (論壇、各種の活動報告、資料等)

看護学に関連する論文で、教育現場や臨床の実践活動に何らかの示唆をもたらす公表の価値があると認められるもの。

(4) 論文の提出

論文は、岩手看護学会ホームページよりオンライン投稿する。

(5) 論文の採否

投稿論文の採否の決定は、査読を経て編集委員会が行う。査読者は編集委員会が依頼する。原則として査読者は 2 名とする。

査読者間の意見の相違がある場合は編集委員会が別の1名に査読を依頼することができる。査読は別途定める査読基準ならびに査読ガイドラインに従って行う。

投稿論文の審査過程において、編集委員会からの修正等の要望に対し3か月以上著者からの回答がなかった場合には自動的に不採用とする。

(6) 編集

論文の掲載順序その他編集に関することは、編集委員会が行う。

(7) 校正

初校は著者校正とする。著者校正は原則として字句の訂正に留めるものとする。再校以後は編集委員会にて行う。

(8) 別刷り

10部単位で著者校正時に申請する。別刷りにかかる費用は著者の負担とする。

(9) 倫理的配慮

人及び動物が対象とされる研究は、倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。具体的には下記の倫理基準を満たしていること。また、原則として研究倫理審査委員会の審査を受けていること。

- ・人体を対象とした研究では、「ヘルシンキ宣言」に従うこと。
- ・動物を対象とした研究では、「岩手県立大学動物実験倫理規定」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・調査研究については、「疫学研究に関する倫理指針」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ヒトゲノム・遺伝子解析を対象とした研究は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」および「遺伝子治療臨床研究に関する指針」または、これと同等水準の倫理基準を満たしていること。

(10) 投稿手続き

- 1) 論文の投稿は、岩手看護学会ホームページの学会誌論文投稿用アドレスより行う。投稿の際は、①筆頭著者の氏名、②会員番号、③所属、④連絡先住所および郵便番号、⑤電子メールアドレス、⑥論文タイトル、⑦論文の種類を明記し、論文と投稿チェックリストを添付して送信する。
- 2) 編集委員会が、投稿論文が投稿規則に従っていることを確認した時点で投稿手続きが終了し、この日をもって受付日とする。また、査読を経て、編集委員会が雑誌掲載を許可した日をもって受理日とする。
- 3) 採用された論文の掲載に研究倫理審査書、共同研究者同意書等が必要とされた場合には、論文受理通知後2週間以内に編集委員会宛てにそれらの書類を提出すること。
- 4) 著者は受理日以降であれば、論文掲載証明を請求することが出来る。

(11) 掲載料

掲載料は無料とする。ただし、カラー写真掲載に関する費用は実費負担とする。

3. 執筆要領

(1) 論文の記述

- 1) 論文原稿は、和文または欧文（原則として英文）とし、A4サイズ横書き、Microsoft Word 書類とする。
- 2) 論文の分量は、表題、要旨、本文、引用文献、図表、Abstract 等全てを含め、組み上がり頁数で以下の規定以内とする。
 - ・総説：25,000字以内（25頁以内）
 - ・原著：25,000字以内（25頁以内）
 - ・事例報告：16,000字以内（16頁以内）
 - ・研究報告：25,000字以内（25頁以内）
 - ・短報：8,000字以内（8頁以内）
 - ・その他：内容により編集委員会が決定する。
- 3) 和文原稿は、原則として現代かなづかい、JIS第2水準までの漢字を用いる。外国の人名、地名、術語は原

語のまま表記する。学術的に斜字体で表記されている術語は斜字体で表記する。単位および単位記号は、原則として SI 単位系に従うものとする。和文原稿の句読点はピリオド及びカンマとする。

- 4) 論文には 400 字以内の和文要旨をつけ、原著については 250 語以内の Abstract (英文) もつける。原著以外の論文に Abstract をつけてもよい。
 - 5) 欧文 (英文 Abstract を含む) は原則として Native Check を受けたものとする。
 - 6) 5 語以内のキーワード (和文および英文それぞれ) をつける。
 - 7) 投稿論文は下記の要領で作成する。
 - ・論文は、表題、著者名、所属、要旨、キーワード、本文、引用文献、表題 (英文)、著者名 (英文)、所属 (英文)、Abstract (英文要旨)、Keywords、図、表の順に作成する。本文が欧文である場合には、表題以下の英文部分から始め、和文の表題、著者名、所属、要旨、図、表を順に最後に記載する。なお、本文中に図表が挿入される箇所を明示する。
 - ・原稿は A4 版横書きで、35 文字×28 行 (約 1,000 字)、文字は 10 ポイントとする。
 - ・文書余白は上下 30mm、左右 30mm とする。
 - ・表題は 16 ポイントとする。
 - ・本文和文書体は MS 明朝、見出しは MS ゴシック (11 ポイント) を用いる。本文欧文書体は Times New Roman を用いる。
 - ・上付き、下付き文字は MS 明朝を用い、Microsoft Word の機能を用いて作成する。
 - ・図表の掲載について以下の通りとする。
 - 図表はひとつの図表の原図毎に A4 用紙 1 枚を用いて提出する。
 - 図には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「図 1. 表題」と図の直下に中央揃えにて記載する。
 - 表には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに「表 1. 表題」と表の直上に左寄せにて記載する。
 - ・図表の文字数目安は、大きさにより、大 (1 頁 1000 字)、中 (1/2 頁 500 字)、小 (1/4 頁 250 字) として換算する。
 - 8) 丸付き数字、ローマ数字等の機種依存文字は使用しない。
- (2) 文献の記載
- 引用文献の記載方法は下記に従う。
- 1) 文献を引用する場合は、本文の引用箇所に著者名 (姓) と発行年次を () 内に表す。なお、書体は本文に準じる。
 - ・単独著者による文献の場合……
 - 例) 岩手 (2016) は……の重要性を示唆した。……が指摘されている (岩手, 2016)。
 - ・複数著者による文献の場合…… 筆頭者他とする。
 - 例) 滝沢他 (2015) は…… ……については……のように指摘されている (滝沢他, 2015)。
 - 2) 引用文献は最後に一括して著者名のアルファベット順にリストを掲げる。同一著者の文献は発行年順に配列し、発行年が同一の場合は、2016a, 2016b のようにアルファベットをつけて区別する。なお、本文中の引用部分も同一のアルファベットを用いて出典を区別する。
 - 3) 文献の共著者名の記載については下記の例に従う。
 - ・和文の場合……3 名以下のときは全員の姓名、4 名以上のときは、筆頭から 3 名の姓名の後に「, 他」をつける。
 - ・欧文の場合……3 名以下のときは姓、名のイニシャル、4 名以上の時は 3 名までの姓、名のイニシャルに「,et al.」をつける。
 - 4) 記載の様式は下記のようにする。
 - ・雑誌の場合……著者名 (発行年次) : 表題名, 雑誌名, 巻または巻 (号), 頁。

例) 兼松百合子 (2015) : 看護ケアをどのように追究してきたか, 岩手看護学会誌, 9 (1), 24-31.

兼松百合子, 藤原マサミ, 野崎富子, 他 : <昭和 45 年> 岩手県立衛生学院開学の経緯－看護婦・保健婦・歯科衛生士や関係者の貢献－, 岩手看護学会誌, 10 (1), 15-23.

県大太郎 (2012a) : A 病院における高齢者の転倒予防に向けた取り組み, 県大雑誌, 35, 2-8.

県大太郎 (2012b) : 家族と共に行う高齢者の転倒予防, 県大看護会誌, 8, 26-32.

- ・ 単行本の場合……著者名 (発行年次) : 書名, 出版社名, 発行地. または著者名 (発行年次) : 論文の表題, 編者名, 書名, 頁, 出版社名, 発行地.

例) 石井トク (2015) : 医療安全 患者を護る看護プロフェッショナル, 医歯薬出版, 東京.

菊池和子 (2014) : 臨地実習に必要な看護倫理 看護計画の評価, 石井トク, 江守陽子, 川口孝泰, 看護倫理 看護の本質を探究・実践する, 135-139, 学研メディカル秀潤社, 東京.

- ・ 訳本の場合……原著者名 (原書発行年次 / 訳者名, 翻訳書の発行年次) : 翻訳書の書名, 出版社名, 発行地.

例) Patricia W. Hickey (1990/ 兼松百合子, 数間恵子 1991) : 看護過程ハンドブック, 医学書院, 東京.

- ・ ホームページの場合……著者名 (投稿・掲載の年次) : URL [検索日 年月日]

例) 厚生労働省 (2014) : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/xxx./index.html> [検索日 2015 年 2 月 3 日]

(3) 英文投稿は本規則のほか Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines を参照すること.

附則 1. 著作権について

- (1) 学会誌掲載内容 (学会ホームページ上で公開する電子媒体を含む) の著作権は, 全て学会に帰属する.
- (2) 学会誌内で掲載されている図表など原著性の高い内容を他の雑誌や書籍刊行物にて使用する際には, 学会誌編集委員長に対して必ず書状にて許諾申請を行うものとする. 許諾は編集委員会宛て郵送にて申請する (電子メールでの申請は受け付けない).
- (3) 前項の許諾申請は 1. 引用する学会誌の論文の号・巻・頁・年度・タイトル・筆頭著者名・使用したい図表等の掲載頁とその図表番号, 2. 利用目的, 3. 依頼者住所・氏名・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレスを明記し, 自署署名を付して申請すること.
- (4) 使用許可のおりた図表等の利用に関しては脚注に (あるいは参考文献として) 原著を引用文献として明示すること.

附則 2. 本規則の適用期間

本規則は平成 19 年 6 月 23 日より発効する.

附則 3. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 20 年 10 月 4 日から施行する.

附則 4. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 21 年 10 月 17 日から施行する.

附則 5. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 23 年 4 月 16 日から施行する.

附則 6. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 24 年 9 月 19 日から施行する.

附則 7. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 26 年 9 月 28 日から施行する.

附則 8. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 28 年 4 月 2 日から施行する.

附則 9. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 28 年 10 月 30 日から施行する.

附則 10. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 29 年 5 月 31 日から施行する.

附則 11. 本規則の改定

本規則の改訂は平成 30 年 4 月 30 日から施行する.

附則 12. 本規則の改定

本規則の改訂は令和元年 9 月 28 日から施行する.

Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines

1. General Guidelines

- (1) The Journal of Iwate Society of Nursing Science is published by the Society two times a year for the purpose of sharing research results in nursing.
- (2) The editorial committee is established by the Society to carry out publishing responsibilities.
- (3) The journal is published online and on paper.

2. Submission Rules

(1) Qualifications for Submission

- 1) The first author listed must be a member of the Society.
- 2) Authors requested by the Society are exempt from the preceding qualification.
- 3) Authors residing outside Japan are not required to be members of the Society.
- 4) Other authors may be qualified by the editorial committee.

(2) Article Categories

Articles published in the Journal must be review articles, original articles, case reports, research reports, brief reports and others, which are unpublished. In the review process, the editorial committee may suggest a change in categories.

• Review Article

A comprehensive evaluation and discussion based on a critical review of literature concerning a specific theme in nursing.

• Original Article

A research article in nursing with originality, including new knowledge and systematically describing research results. It should contain clear significance for knowledge in nursing science. It must be presented systematically consisting of purpose, method, results, discussion and conclusion.

• Case Report

A report of a valuable clinical example of nursing. It will provide beneficial information for nursing practice and nursing science.

• Research Report

A research article in nursing with a significant research conclusion, which will be recognized as contributing to the development of nursing science. The article must consist of purpose, method, results, discussion and conclusion.

• Brief Report

A short research article in nursing containing new knowledge, expected to contribute to the development of nursing science. The article must consist of purpose, method, results, discussion and conclusion.

• Other articles (Issue, Clinical Practice Report, Material, etc.)

Articles related to nursing with suggestions for the educational context and clinical practice activities and are considered worthy of publication

(3) Article Submission

Articles should be submitted online.

(4) Review Process

The decision on submitted articles concerning acceptance for publication is carried out by the editorial committee, based on the evaluation of two anonymous reviewers at the request of the committee. If there are differences of opinion between the reviewers, an additional reviewer will be requested. The review is conducted in accordance with the reviewing standards and guidelines.

If the author does not respond to the editorial committee's comments on modifications for more than three months, the article will automatically be rejected.

(5) Editing

The publication sequence of articles and other editorial issues are performed by the editorial committee.

(6) Proofs

The first proofreading will be conducted by the author. Corrections by the author will be limited to the correction of words and phrases. Further proofreading will be performed by the editorial committee.

(7) Reprints

The author may ask for reprints in blocks of 10 copies during the proofreading process. The cost will be the responsibility of the author.

(8) Ethical Considerations

Research on human subjects or animals must include a statement of ethical consideration. The ethical standards written below must be fulfilled. The research protocol must be approved by the Ethical Committee of the institution.

- Research on the human body must follow the "Helsinki Declaration".
- Research on animals must meet the ethical standards of the "Iwate Prefectural University Ethical Provisions for Animal Experiments" or other similar standards.
- Investigative research studies must meet the ethical standards of the "Ethical Guidelines on Epidemiologic Study" or similar standards.
- Research on the human genome and genetic analysis must meet the ethical standards of the "Ethical Guidelines for Human Genome and Genetic Analysis" and "Guidelines for Clinical Research on Gene Therapy" or similar standards.

(9) Submission Procedures

- 1) Articles should be submitted through the Iwate Society of Nursing Science web site by attaching the file of article. The submitter also should write ① Name of the first author, ② Membership number, ③ Affiliation, ④ Postal address including postal code, ⑤ E-mail address, ⑥ Title of the article, ⑦ Category of the article. Submission checklist should be attached.
- 2) Once the editorial committee has confirmed that the submitted article conforms to the submission rules, the submission procedures are completed and this date is considered the date of receipt. The date when the editorial committee accepts the article for publication, based on the reviewers' evaluation, is considered the date of acceptance.
- 3) The author of an article accepted for publication for which a joint research agreement and ethical screening report are necessary must supply those documents to the editorial committee within two weeks of notification of acceptance of the article.
- 4) The author may request a proof of publication for the article after the date of acceptance.

(10) Publication Costs

The costs for publication are free. However, publication costs of color photographs are the responsibility of the author.

3. Writing Guidelines

(1) Description of the Article

- 1) The submitted article is to be in Japanese or English, using A4 page settings and written in MS Word.
- 2) The length of the article must be no longer than the page limits described below. The page count is inclusive of all parts of the article: title, abstract, main text, references, tables, and figures.
 - Review Article: 6,500 words
 - Original Article: 6,500 words
 - Case Report: 4,000 words
 - Research Report: 6,500 words

- Brief Report: 2,500 words
 - Other articles: The editorial committee will decide on the length of the article according to content.
- 3) Measurements and measurement symbols should conform to System International (SI) units.
 - 4) An abstract of within 250 words should be attached to articles.
 - 5) Five or fewer keywords should be included in all articles.
 - 6) The article should be as follows
 - The article should be presented in the following order title, name of the author, affiliation, abstract, keywords, figures, tables, text, references.
 - The text and references should be one-columned, 35 lines in 10 point font and everything else should be in one column.
 - The top and bottom margins should be set at 25mm and the left and right margins should be set at 20mm. Margins will be used by the editorial committee to display page numbers, the name, volume and number of the journal and the dates of receipt and acceptance.
 - The title should be in 16 point font.
 - The typeset for English text should be Times New Roman.
 - Insertion of Diagrams:
 - Sequential numbers should be added to each figure in the article and e.g. “Fig 1.” and the title of the figure should be centered directly below each figure.
 - Sequential numbers should be added to each table in the article and e.g. “Table 1.” and the title of the table should be written directly above the table to the left.
 - 7) Numbers enclosed in circles, roman numerals and similar machine-dependent characters should not be used.
 - 8) If the author is Japanese, the Japanese title of the article, the name of the author in Japanese, the name of the affiliation in Japanese and an abstract in Japanese should be attached.
- (2) Description of References
- Citations should follow.
- 1) When citing a text, the author's name (surname) and the year of publication should be mentioned in brackets in the main text. Furthermore, the font should be the same as that of the main text.

Eg. Iwate (2016) suggested the importance of

. . . is shown as . . . (Takizawa et al., 2015) .
 - 2) The cited literature should all be listed in alphabetical order at the end of the document. If there is more than one text by the same author, they should be arranged in order of the year of publication and distinguished by appending letters after the year of publication, such as 2016a, 2016b. The citations in the main text should also use the same letter to distinguish the sources.
 - 3) The author's name should be cited as in the following examples:
 - For Japanese literature: for up to three authors, the full names of the authors should be provided. In the case of four or more authors, “, et al.” should be added after the full name of the third author,
 - For foreign literature: for up to three authors, the surname should be followed by the initial of the given name. In the case of four or more authors, the surname and initial of the first three authors are provided followed by “, et al.”
 - 4) The format for listing references at the end is as described below:
 - For magazines: Author name (year of publication) : title, name of the magazine, volume or volume (issue) , pages.

Eg. Yuriko Kanematsu, (2015) : Continuous Inquiry into Nursing Care, *Journal of Iwate Society of Nursing Science*, 9(1), 24-31.

Kanematsu Y., Fujiwara M., Nozaki T, et al. (2015) : Opening of Iwate Prefectural Institute of Health Practitioners in1970 — Contributions of Nurses, Public Health Nurses, Dental Hygienist and others — , *Journal of Iwate Society of Nursing Science*, 10(1), 15-23.

Taro Kendai (2012a) : Fall prevention measures for the elderly in Hospital A, *Prefectural Magazine*, 35, 2-8.

Taro Kendai (2012b) : Fall prevention measures for the elderly carried out in association with family members, *Prefectural Journal of Nursing*, 8, 26-32.

- For books: Author name (year of publication) : title, publisher name, place of issue. Or: Author name (year of publication) : title of the paper, name of author, title, pages, publisher, place of issue.

Eg. Toku Ishii (2015) : *Medical Safety: The Nursing Professionals Taking Care of Patients*, Medical, Dental and Pharmacological Publishing, Tokyo.

Kazuko, Kikuchi (2014) : Essential Nursing Philosophy for On-Site Practice: Evaluation of Nursing Plans, Ishii T., Emori Y., Kawaguchi T., *Nursing Philosophy: Exploring and Practicing the Essence of Nursing*, 135-139, Gakken Medical Shujunsha, Tokyo.

- For translations: Name of the original author (publication year of original article/name of the translator, publication year of the translation) : title of the translation, name of the publisher, place of issue.

Eg. Patricia W. Hickey (1990/Yuriko Kanematsu, Keiko Kazuma 1991) : *Nursing Process Handbook*, Medical Journal, Tokyo.

- For websites: Author name (year of posting) : URL [date accessed]

Eg. Ministry of Health, Labor and Welfare (2014) : <http://www.mhlw.go.jp/toukei/xxx./index.html> [Accessed February 3, 2015]

4. Copyrights

- (1) The copyrights of all articles and content of the journal (including the online version on the web site) are reserved by the society.
- (2) Before using diagrams and highly original items published in the journal, users must apply for permission from the editorial committee of the journal. (E-mail applications will not be accepted.)
- (3) An application for permission should include:
 1. The volume, number, pages, year, title of the article, the name of the first author listed and the page number or number of the diagram for which permission is sought.
 2. The purpose of use.
 3. The full name, address, telephone and fax number, e-mail address and signature of the applicant.
- (4) Diagrams and other items for which permission for use is granted must be stated as a citation from the original article in footnotes or references.

September 28, 2019

岩手看護学会誌 論文投稿のご案内

岩手看護学会では、岩手看護学会誌を年2回発行しております。冊子体としての発刊のほかに、インターネットに対応した電子体でも発刊しております。また、「医学中央雑誌」に掲載されております。

論文には、「総説」「原著」「事例報告」「研究報告」「短報」「その他」と種類があります。院内でとりくまれている看護研究や日々のかかわりをまとめた事例研究、普段から取り組んでいる業務の改善などを、論文としてまとめてみてはいかがでしょうか。

岩手看護学会誌は、みなさまからの投稿で成り立っております。岩手看護学会では、みなさまの論文投稿の支援を、論文投稿支援窓口と編集委員会が行っております。

みなさまからの論文の投稿をお待ちしています。

支援窓口、支援内容、問い合わせ先

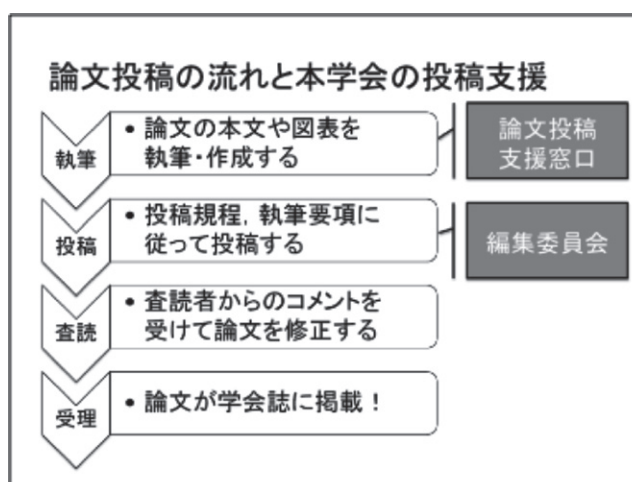
● 論文投稿支援窓口

- 論文の執筆に関する相談をお受けします。
- 担当者：鈴木美代子、及川 紳代

● 連絡先：shien@isns.jp

● 編集委員会

- 投稿から校正までをお手伝いします。
- 担 当：岩手看護学会編集委員会
- 連絡先：regist@isns.jp（論文投稿のメールアドレスと同じ）



編 集 後 記

岩手看護学会誌第13巻第2号を皆様にお届けすることができますことを大変うれしく思います。

今回は論文6編と多くのご投稿をいただきました。執筆者ならびに査読者の皆様に心より感謝申し上げます。本学会員の皆様からの論文投稿が増え、学会誌をとおして実践者と研究者の体験が共有されていくことを期待しております。

今後もより多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。

(原 記)

編集委員

工藤朋子（委員長）	及川紳代（副委員長）	鈴木美代子（副委員長）	
金谷掌子	蘇武彩加	鳥居奈津子	中野千恵子
箱石恵子	原 瑞恵	藤澤由香	

(五十音順)

岩手看護学会誌 第13巻 第2号

発行日 2019年11月29日

編集 岩手看護学会編集委員会
代表者 工藤朋子

発行 岩手看護学会
代表者 内海香子
〒020-0693
岩手県滝沢市巣子152-52
岩手県立大学看護学部内岩手看護学会事務局
Fax 019-694-2273
E-Mail regist@isns.jp

印刷 河北印刷株式会社

Journal of Iwate Society of Nursing Science

Foreword

What is good point of Iwate Society of Nursing Science?

Kyouko Uchiumi

1

Original Article

Constructing a Nursing Model for Interdisciplinary Cooperation in the Support of Families with Disabled Children : Working Towards Providing Total Care that Includes Family-based Care

Mizue Hara, Noriko Shirahata

3

Research Reports

Literature Review on Postpartum Care Using the PRECEDE-PROCEED Model : According to Local Circumstances in Iwate Prefecture

Yoko Yamamoto, Yukiko Yuda, Natsuko Kakizaki

15

The Experiences of Patients Receiving Outpatient Chemotherapy for the Treatment of Unresectable Pancreatic Cancer

Mariko Takayashiki, Kazuko Kikuchi

27

A Research on End-of-life Care and Death Conferences of Nurses working at Medical Institutions in Iwate

Miyoko Suzuki, Mutsumi Chida, Osamu Ito

41

The Thoughts to the Cooperation with Medical Institutions of Visiting Nurses who Support Elderly with Diabetes Undergoing Insulin Therapy

Atsuko Sato, Mutsumi Chida, Misako Kojima, Yoko Tsuchiya

57

Case Report

An Investigation of Factors Influencing the Limited Ranges of Motion in Patients after Surgery for Distal Radius Fracture

Yuriko Kataoka, Mika Kobayashi, Megumi Sasaki, Reiko Kamiyama, Hitoshi Nozato

67

MENKOI Seminar

Mutsumi Chida, Natuko Miura

73

Journal of Iwate Society of Nursing Submission Guidelines

75

Information about Submission of Articles

84

Editorial Postscript

85

Volume 13 Number 2 November 2019

Iwate Society of Nursing Science